

測、実験の方法を示唆し、また優れた観測、実験は新しい事実を発見し、新しい理論の発展をうながすことは言うまでもありません。このことが、実際に行われるためには、上に述べた様な研究の発表、討論の場が必要なのではないのでしょうか。しかし、これを具体的にどの様な形で実現するかについては、時間の制限、開催の場所などについていろいろの問題点があります。

研究成果の発表、討論の方式について以上の様な私見を述べさせて頂きましたが、会員の皆様はそれぞれいろいろの御意見をおもちであろうと思いますので、是非その様な御意見をお寄せ願ひ、日本気象学会の最も重要な行事の一つである研究成果の発表の方法をより良くすることができればと考えております。

日本気象学会第19期役員選挙告示の付記の 一部訂正について

さきに本誌第22巻第12号に掲載しました選挙告示の付記のうち、細則第7条の1項に間違いがありましたので、次のとおりその一部を訂正します。

(誤) 関東地区(東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)……10名 加算分5名

(正) 関東地区(東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、

埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、山梨県)……8名
加算分5名

中部地区(富山県、石川県、福井県、長野県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)……2名

昭和51年1月7日

日本気象学会選挙管理委員会

(電話 03-212-8341 内線 400)

第18期第4回理事会議事録

日時：昭和50年10月29日 18:00～20:00

場所：大阪府商工会館 6階特別会議室

出席者：磯野、小平、浅井、朝倉、大井、奥田、神山、河村、北川、高橋、二宮、野本、丸山、各常任理事、川村、孫野、田中、伊藤、小林、中島、山元、坂上、沢田、各理事、藤田監事。

臨席者：安藤技術部長、川鍋調査課長(大阪管区気象台)

大西、田中、三宅各常任理事(関西支部)。

議題

1. 学会の財政問題

野本会計担当理事から、9月25日会計委員会でもとめられた昭和51年度財政の見通しについて説明された。

これについて、高橋理事から、学会賞、藤原賞の増額が提案され検討することになった。

2. 選挙管理委員長について

安井 正会員(気象庁海洋課長)にきまり承認された。

3. 会員名簿の作成、選挙人名簿について

事務局で作成することは、時期的に困難であり、また

作業を能率化するため、来年は直接会費から異動を連絡して貰い名簿を整備することにきまった。

4. 天気編集委員の追加

岡本利次会員(気象庁統計)を承認。

5. 気象集誌の編集委員の追加

嘉納宗靖会員(気研高物)を承認。

6. 大会運営について

朝倉担当理事から、春、秋大会の講演申込みについて(9月8日、常任理事会議事録参照)の検討結果を報告したところ、各理事から色々建設的な意見が出た。

来年春の大会は、原案通り試験的に実施することとし、分科会方式等の案について更に十分検討を行うこととした。

7. その他

(1) 第4回国際海洋開発展ならびに第4回国際海洋開発会議(シンポジウム)に協賛することを承認。

(2) 萩原長治郎氏を10月から正式に事務局職員とした。